https://rodosoken.com

新刊紹介

社会福祉辞典編集委員会編

『社会福祉辞典』

石川　芳子

9月に大月書店から社会福祉辞典編集委員会編(監修：一番ヶ瀬康子・小川政亮・真田是・高島進・早川和男)の「社会福祉辞典」が発刊された。基礎用語から直近の話題、国際的内容も盛り込まれた3,400項目が解説されている。300人の各分野の専門家による、98年夏から4年をかけた編集作業により、学習や研究、資格試験準備、実践・実務・運動に必携の社会福祉へのあらゆる関心と必要に応えられる内容となっている。私も楽しみに「介護保険」を探して見た。37項目にわたってあらゆる視点から解明していた。介護保険制度の多岐にわたる解説や、市町村の役割、介護労働、ドイツの介護保険制度の紹介まで、9ページを使って紹介されている。また、「年金の積立金」については、2000年3月末の数値が記載され、年金の支給開始年齢と給付額などの額も直近の数値が記載されている。実用的であり、わかりやすく総合的で本格的な社会福祉辞典であると確信をもって紹介したい。

この「社会福祉辞典」は、引きやすく50音順で編集され、①国際、理論、歴史、労働、運動、②法律、行財政、③社会保険、④貧困・生活保護、失業問題、⑤高齢者福祉、⑥障害児・者福祉、⑦児童・母子福祉、ジェンダー問題、司法福祉、⑧地域福祉、居住福祉、⑨医療・保健、⑩方法・技術、資格制度、福祉教育の10分野に加えて、関連領域の住宅、心理学、経済学、社会学、統計・調査の6分野からも基本的用語が解説されている。

政府がめざす「利用と契約方式」によって社会福祉の公的責任が変質しようとしているときに、改めて「社会福祉」が公的福祉として存在するために、生存権や基本的人権を柱に据えた運動が求められている。この「社会福祉辞典」が職場や自宅に1冊あれば、学習会の資料作りやニュースのミニ解説、運動の方向や実践を支える確かな力になることは間違いない。

「辞典」は並べておくだけになりがちだが、忙しい時にこそ楽しくページを開きたくなるのがこの「社会福祉辞典」である。

(大月書店・2002年9月刊・4800円)

(いしかわ　よしこ・全労連常任幹事)

全労連、パート・臨時労組連絡会編

『パート・臨時などではたらくみんなの実態アンケート調査報告書』

川口　和子

この『実態調査報告書』の特徴は、精力的で誠実な調査と集約の手法にある。

対象を全労連加盟組織内だけでなく、周辺の未組織の非正規労働者にも「手を届」かせ、アンケート回収数1万5090枚の内訳は、労組未組織者(53.6%)が労組員(42.9%)を上回り、とくに未組織の男性非正規労働者からも「予想以上」に多くの回答が寄せられたという。そのため労組加入者と未加入者の対比、男女対比、未組織者の労働組合への関心度など、他には見られないユニークな分析が行われている。

設問と集約項目も、非正規で働く理由と雇用契約、賃金、労働時間、福利厚生、課税最低限度額への対処(パートの労働調整など)、職場における不満と不安等に加えて、最近増加している二つ以上の職場をかけもちで働く「ダブルワーク」についても、予想をこえる回答数から事態の進行を直視し、補論として一章を設けて検討されている。

その結果として、今や非正規雇用は多くの労働者のやむを得ない不可欠の生計維持手段であること、しかもパートの労働時間カットなど経営側の人件費抑制策強化の進行、そしてリストラにより増加しつつある男性の未組織・非正規雇用のいっそう劣悪な現状等、「現代男性就労者の影の部分」も含めてリアルに浮かびあがらせている。それは、こうした現実をすべて無視し「ライフスタイルに応じた多種な働